

手術以外の局所治療

乳がんの手術療法は縮小化の傾向にあります。今日では標準治療である、乳房部分切除術も、手術創の瘢痕や乳房の変形の問題があり、将来的には手術で切除をしないという方法も望まれます。乳がんを手術で切除する目的には、局所のコントロールのほかに、病理組織学的あるいは分子生物学的情報を得るという目的もありますが、近年ではコアニードル生検・マンモトーム生検にて組織学的情報を得ることも可能です。そうした考えから、非手術的に局所治療を行なう試みがいくつかなされています。

凍結療法は、超音波ガイド下に腫瘍にプローブを刺入し、アルゴンガスにより凍結と融解を繰り返すことによって癌細胞を死滅させます。腫瘍消失率は 31-85%であり、比較的小さな病変について効果が報告されています。

マイクロウェーブ療法は、皮膚上から、腫瘍をマイクロウェーブにて癌細胞を加熱凝固する方法ですが、腫瘍消失率は 8%と低く、開発途上といえます。

集束超音波は超音波を腫瘍に集束させることで、癌細胞を加熱凝固する方法です。臨床試験では 100%の腫瘍消失率を認めております。高価である、治療時間が長いなどの問題はありますが、穿刺の必要が無いと言う意味で侵襲がほとんど無く、将来性を期待されている方法のひとつです。

レーザー光凝固療法は、光ファイバーを腫瘍内に穿刺し、レーザー光を照射し、癌細胞を加熱凝固する方法です。腫瘍消失率は 70%ほどです。MRI でモニターしながら、遺残した病変に対して凝固を追加できる利点があります。

ラジオ波凝固療法は、腫瘍に電極を刺入し交流電流により加熱凝固する方法です。腫瘍消失率は 87%と高率です。適応となる病変は、皮膚から 1cm 以上離れた、大きさ 2cm 以下の限局した病変です。

これらの方法は、何れもまだ確立された方法ではなく、適応は慎重に検討するべきです。臨床試験にて、乳房部分切除と同等の長期成績、局所のコントロールが得られることを確認してはじめて導入されるものと考えられます。